

## 2024年度日臨技九州支部医学検査学会(第58回)を終えて 「Take the next step ～未来へ踏み出す大きな一歩～」

一般社団法人鹿児島県臨床検査技師会 会長 (元:鹿児島市医師会病院 診療支援部 参与)

有村 義輝

新春のお慶びを申し上げます。

鹿児島市医師会の先生方におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃から鹿児島県臨床検査技師会の運営に際しまして、心温かいご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

昨年11月9日～10日に開催されました2024年度日臨技九州支部医学検査学会(第58回)について学会長として報告いたします。



学会当日、鹿児島の与論島には大雨特別警報が発表され、県では災害対策本部が設置されました。このような状況の中での本学会開催となりました。被害に遭われた与論島の皆様にお見舞い申し上げたいと思います。

開催にあたり多数のご来賓のご臨席を賜り、鹿児島市医師会会長の上ノ町仁先生にはご祝辞をいただき、改めて心より厚く御礼申し上げます。また、日本臨床衛生検査技師会(日臨技)会長ならびに九州各県役員の方々と会員の皆様、ならびに賛助会員の皆様が多数ご参加くださいました。

鹿臨技企画1「タスクシフト/シェアその他業務拡大関連について」は一歩前進を感じさせられるシンポジウムでした。また、鹿臨技企画2「臨床検査技師会としての養成学校との関わり方」については司会、演者、アンケート企画者3者による討論がとても面白く、今後のシンポジウムの形式はこのように行うのが良いのではないかという意見をいただきました。



文化講演として「鹿児島の食と心～食から伝える思いや命～」と題してNPO法人霧島食育研究会の理事長であられる千葉しのぶ先生からご講演をいただきました。「母ちゃんの声」として食卓で何を伝えるのか、伝えたいことは何なのかも今一度考える必要があるのではないかと。自分が大切にされた思い出があると、子ども自身が「自分を大切にすること」が出来るので、子どもと過ごす時間の中で食の温かな思い出を多く子どもの心の中に入れてほしいとのことでした。講演後の質疑応答の時間においては「なみだ～涙、🌧️、😞」越しのやり取りに心が洗われる想いであり、多数の方々から人情味のある素晴らしい講演

でしたねとの感想をいただきました。

特別講演ではシスメックスから hinotori™ の紹介をはじめ、手術支援ロボットの歴史、安全に使用するためのガイドライン、保険請求を実施する上で必要な施設基準、今後の取り組みとして、医療従事者の負担軽減を目指した遠隔医療について紹介をいただきました。

教育講演では救急科医からみた検査値・パニック値、その中で「パニック値」の一覧について講演され、その運用については、医療安全対策の一環としてチームで一体となって確実に推進することを求める必要があると話されました。



基調講演では日臨技の横地会長から政府が進める医療DXの未来について、臨床検査技師の根幹である品質保証された検査データの迅速報告体制を確保した上で、「臨床検査DX」をどう進めるかご講演をいただきました。

学生フォーラムでは学生に「将来こんな技師になりたい、臨床検査技師になってこのような仕事に携わってみたい」などの夢のスライド発表と若手技師からは「病院で働く臨床検査技師から」と題して、自身が今後どのようなになっていきたいかを考え、将来性や認定資格について発表をしてもらいました。また、日臨技から今後の技師会の方向性の思いも語ってもらい、参加者からも質疑が多数出ました。学生フォーラムは本学会のトリのプログラムとして多数の参加があり、その効果

もあったと思います。

情報交換会は多くの会員、賛助会員の皆様方の参加があり大盛況でした。余興はベリーダンスの出演を依頼しました。全身を使う有酸素運動でリンパの流れが良くなり内臓の調子が整うと言われているダンスですが、参加された方々はほとんどお酒の流れが良くなり回っていました（写真撮影禁止のため、写真がないのが残念です）。

本学会は悪天候にもかかわらず、参加人数854名と多くの臨床検査技師会員の参加、賛助会員の協力により大きな問題もなく、盛会裏に終了することが出来ました。そして「九州はひとつ」を合言葉に鹿児島県の総力を結集して学会運営に取り組んだ鹿児島でのこの学会が、学会テーマの如く、参集した皆様の未来に踏み出す一歩になれば幸いと思っております。



集合写真

結びに、鹿児島市医師会の先生方の診療支援チームの一員として活躍できる臨床検査技師の育成に努めるべく、技師会活動を行う所存でありますので、よろしくお願い申し上げます。